

## 4 歳児 さくら組 保育指導案

指導者 内 田 祐

教師が子どもの思いをよみとり、理解し認める言葉と価値づける言葉で思いをつなげるはたらきかけをしたことは、子ども同士が思いを伝え合うことや、友だちと共同的な遊びを楽しむこと、友だちの考えを取り入れ経験する内容を広げていくことに有効であったか。

### 1 活動名 いっしょにしようよ おもしろいね

### 2 4期前半(10月上旬～11月下旬)の保育の構想

#### (1) 本学級の子どもたちの姿

本学級の子どもたちは、入園当初から、新しい環境でも興味のあることに対しては、自分の思いを素直に出し、積極的に思いを実現しようとする姿が多く見られた。その中で、複数の友だちと一緒に遊ぶことを好む子ども、教師と一緒にいることで安心して遊ぶ子ども、特定の友だちを求め、いつも一緒にいたがる子ども等、特に人との関わり方においては子どもにより様々な姿があった。

このように、友だちを求める姿が違う子どもたちに対し、個々の子どもの感じ方や求めるもの、体験のつながり等を意識して子どもの発達する様子を見とるようにしてきた。特に、友だちとの関わりがうまくいかない子どもに対しては、一人ひとりの発達の違いを考慮し、状況に応じて声のかけ方を変え、じっくりと関わるようにしてきた。2期(5月～6月初)、友だちの遊びの状況が理解できず会話も成立しなかった子どもは、6月上旬から意思の疎通ができるようになってきており、みんなが集まっているときに、遊びたい気持ちを抑えきれず一人で遊んでいた子どもも、友だちのしていることを見て徐々に学級に入ることができるようになってきた。

3期(6月中旬～9月下旬)では次のような子どもの発達の姿が見られた。

ア. できるまで続けたり、やり方を変えてみたりと、遊びが持続した。

チョウが捕れるまで追いかけて続けたり、竹登りやうんていができるまで、いろいろなやり方で試したりするなどの姿が見られた。その過程で、友だちに虫を見なかったか尋ねたり、一緒になって追いかけて、どうやったら登れるか教えてほしいと頼んだり、友だちとのかかわりが遊びの持続を支えていた。(追求力、持続力)

イ. いろいろな友だちとかかわりをもつようになってきた。

見つけたものや上手く作ることができたものを周りの友だちに見せたり、絵本を見ていて気付いたことを言葉に出したりと、友だちに伝えたいという思いが分かる姿が増えた。シール貼りや弁当の時には特にリラックスし、友だちとおしゃべりを楽しんでいた。運動会の前後を通して、たんぼ組や年長組の子どもたちとも触れ合う機会が多く、それに伴って、みつけた遊びの中でも、たんぼ組の友だちとのしぜんなかかわりや、誘い合う姿が少しずつ増えていった。(友だちとのかかわりの拡がり)

ウ. 友だちを思いやる気持ちや学級の一員としての気持ちが芽生えてきた。

前日休んだ友だちを「今日は来る？」と気かけたり、怪我をした友だちと一緒に保健室について行ったりする姿が増えてきた。また、クラスカラーのピンクの帽子をかぶることを嫌がっていた男の子達も帽子をかぶることが増えたり、遊びを続けたい場面でも「さくらさん～」という呼びかけには反応したりするようになってきた。(学級の仲間意識の芽生え)

エ. 関心をもつ自然・生き物の種類が増え、いろいろなかかわり方をするようになり行動範囲が広がった。

学校園の敷地の散歩やワークショップ(園庭の植物発見)を体験したことで、今まで見過ごしていた植物にも目が向くようになり、園庭の端の方にまで興味が広がった。遊びの材料に使う、植物そのもので遊ぶ等、植物を使う遊びの種類が増えた。また、伝え合う場で友だちに見せてもらったものと同じ葉っぱや木の実を探したり、季節が変わって新たな虫と出会い、虫を探す場所が変わったりした。

#### (2) 4期前半(10月上旬～11月下旬)のねらいと経験してほしい内容・ねらい設定の意図

3期の子どもの姿から、友だちとのかかわりが相互作用し、遊びを追求することや周囲の環境に目を向けること等につながっていることが分かる。運動会に向けて集団での遊びを楽しんだ経験をもとに、4期前半の生活では、自分の思いを言葉に表しながら友だちとの共同的な遊びをすることを通して、自

分とは違う友だちの気持ちや考えがあるということにも少しずつ目を向ける姿が見られるようになってほしいと願っている。このような友だちとのかかわりの広がりや深まりとともに、身近な環境への興味や遊びの面白さを共有していくことが、遊びの追求につながり、思考力・判断力・表現力の育ちへとつながっていくと考えた。そこで、「いっしょにしようよ おもしろいね」というキーワードを設定し、次のようなねらいと内容を想定した。

#### 4 期前半のねらいと内容

ア. 思いを実現しようと試したり、満足できるまで自分なりにやろうとしたりする。(意欲・追求力)

- ・新しいことや今までできなかったこともやってみようとする。
- ・自分なりにできるまで何度も繰り返しやってみる。
- ・いろいろな方法を試したり、友だちのやり方を真似したりして、うまくいく方法を探す。

イ. 友だちと願いやイメージを共有して遊ぶ楽しさを感じる。(友だちとのかかわる力・心情)

- ・共通の話題で会話をしたり、ごっこ遊びが成立するように役目を決めて遊んだりする。
- ・自分の思いを言葉や動作・身振り等で友だちに伝えようとする。

ウ. 友だちの思いに共感し、優しい気持ちや仲間意識を感じる。(友だちとのかかわる力・心情)

- ・手紙やプレゼントを渡したり、泣いている友だちの側に寄り添ったりする等、友だちに何かをしてあげようとする。
- ・今まであまり一緒に遊んだことのない友だちと話をしたり遊びの仲間に入れたりする。
- ・集まる時に友だちに呼びかけたり、友だちの呼びかけに呼応していく。

エ. 自然を中心とした環境に興味をもってかかわり遊びに取り込んでいく。(環境とのかかわり・知的関心)

- ・季節と共に変化した園庭の木の実や友だちが発見したこと等、新しいことに興味をもち、探したり手に入れようとする。
- ・不思議に思ったことを気のすむまで眺めたり、何故なのかを考えたりする。

### (3) 4 期前半(10月上旬～11月下旬)の環境の構成と教師のはたらきかけ

#### 環境の構成

○自分で遊びに必要なものを選ぶ楽しみや、新しいものに興味をもつことにつながるよう、子どもの遊びから見とった必要なものを、子どもが探せる場所に用意しておく。遊びに必要なものは子どもが自分で作れるように、いろいろな形の容器や箱、チラシ、画用紙の切れ端等、シンプルなものを用意する。本棚には、季節や子どもの興味に合わせた絵本を並べ、特に今子どもが興味をもっていることに関連したものや子どもに見てほしいものは、表紙が見えるように置いておく。(物的環境)

○晴れた日は園庭の広い空間で体を十分に動かす遊びや、自然環境の変化に目を向けていくようにする。(自然・空間的環境)

○学級で共有する活動は、次学年にむけて「学級みんなで伝え合う」力を養うための基盤として、今期では自分の思いを言えたという満足感を大事にする。周りの子どもに質問したり、同じ思いをしている子どもの思いを表現させたりして、友だちの思いに意識が向くようにする。多くの子どもが参加できるよう興味関心を共有できる話題を取り上げていく。(共有する場の構成)

#### 教師のはたらきかけ

##### ○「ねらいア」に対してのはたらきかけ

興味のあることには積極的に向かっていくという子どもたちの主体性をいかし、その子なりの楽しみ方を尊重して、新しいことや今までできなかったことにも楽しんで向かえるようにする。子どもが今何を求め、どの程度で充実感をもつかということを見とり、個々の子どもの願いの強さや発達の状況によって、教師が手を貸すか自力でさせるかということや、他の子どもがしている方法に目をむけていかせるのか等を判断していく。

##### ○「ねらいイ」に対してのはたらきかけ

友だちと一緒に嬉しい・楽しいという思いを先ず大事にし、友だちと一緒に遊びを展開していく中で経験している内容や、一人ひとりの考えや思いの表現を的確に読みとり価値づけていく。教師も同じように声を出して遊びに参加し、楽しいという思いを共有したり、子ども同士の会話をつなげ、互いに自分の思いが伝わり合う喜びを感じることができるように行ったりする。

##### ○「ねらいウ」に対してのはたらきかけ

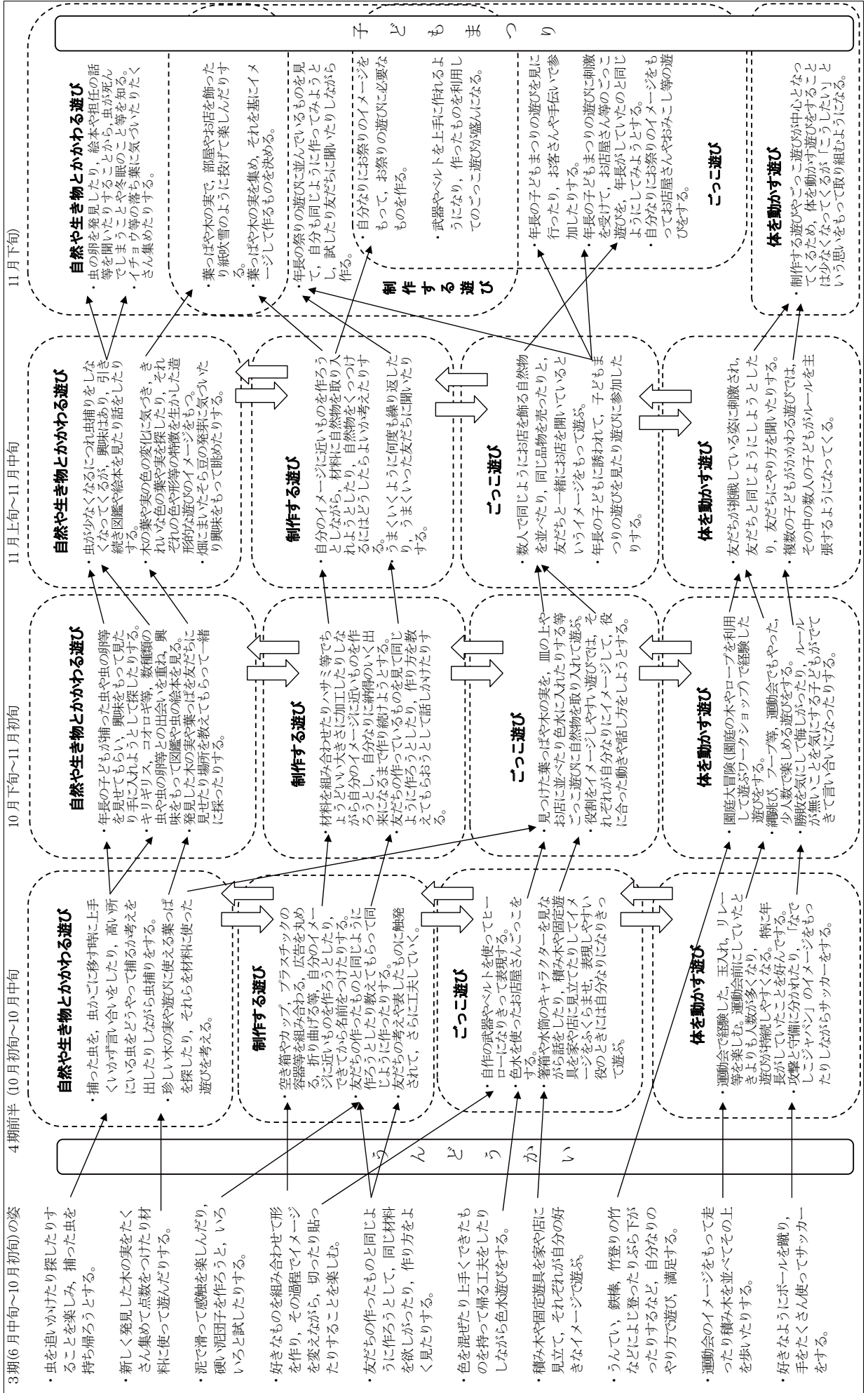
友だちに対する思いへのはたらきかけは、特に心情や態度を育てようという意識をもって、子どものその時の気持ちを推測して言葉に表し、漠然としていた子どもの思いをはっきりしたものにしていく。また、トラブルの場面では、子どものどのような思いがその時の姿となって表れているかを見とったり、気持ちを聴き出したりし、子どもの思いに添った言葉をかけていく。

##### ○「ねらいエ」に対してのはたらきかけ

子どもが自分の興味を追求しようとする姿を大事にして、自分の思いを実現するために何を求めているかを見とり、必要に応じて言葉をかけたり手を貸したりしていく。そのために、教師も子どもの興味の対象に関心を持ち、共有したり、子どもの思いに共感したりし、適切な言葉をかけられるようにする。

### 3 予想される幼児の幼児の主な活動の展開

以下に3期で見られた主な活動と、4期前半で予想される主な活動の展開を示す。この予想は、子どもが生活を尊重した予想である。



#### 4 本日の生活について

(1) 本日のねらい

自分のやりたい遊びに向かい、思いを実現するために友だちとやりとりをしたり必要なものを選んだりしながら遊ぶ。

(2) 予想される生活の展開

経験してほしい内容

◎…伝え合いの姿、見とりと価値づけの観点

◎…伝え合いのためのはたきかけ  
教師の支援と願い

8：45 登園

・子どもの話をつなぎ、担任だけでなく友だちとも話ができたという思いをもてるようにする。普段とは違う様子を見せる子どもを気にかけておく。

9：00 げんきっこタイム

・保育者自身が楽しんで参加し、子どもたち楽しんでそうな雰囲気伝えていく。無理強いほしくないが、参加したくない子どもにも一言声をかける。見ていただけ、側にいただけでも、その子どももなりの頑張りを認めていく。

9：10 自分でみつけた遊び

#### 自然や生き物とかかわる遊び

◎面白そうな植物や見ることない虫を探し園庭を歩き回ったり、友だちが発見したものを興味をもって眺め、同じものを手に入れようと、どこで見つけたか聞いたりする。  
・自分の興味のあることに関する図鑑や絵本を見たり、そのことについて友だちと話をしたりする。

#### 制作する遊び

・自分のイメージを形に表すことができるよう、材料を選んだり思うような大きさに切ったりする。  
◎自分のイメージを形に表そうとし、うまくいかなかったときはやり直したり、担任や友だちに手を貸してもらおうと声をかけたりする。

◎子どもたちの知りたいという思いを大事にする。子どもが見ているものを、子どもと同じ目線でできちんと見、子どもと向き合って話をしていく。子どもの発見したものについて話を聴いたり、周りの子どもにも伝えて、一緒に話をしたりする。  
・子どもが興味をもって見ているものについて一緒に話をしたり、開いている本のページについているものの中でどれが好きか、子どもと一緒に指差ししたりする。

10：20 頃 片付け

・十分に遊んで納得し片付けに向かう。

10：35 頃 学級で共有する活動

・遊びの切り目に声をかけていくようにする。遊びが盛り上がりつつある子どもたちには、もうすぐ片付けにするということをもって伝え、気持ちの準備ができるようにする。  
次の日の遊びにも使いたいものを残しておく場を作っておく。

・満足した自分の遊びや発見をみんなに伝えたい、みんなの前で立ちたい、みんなの前で話したい、みんなの前で話したいことや絵本の内容について知っていること等を、すぐにその場で言葉にしようとする。

・「みんなに見せたい」「みんなにこのことを言いたい」等の子どもの気持ちを大事にし、その日の子どもの希望を踏まえ臨機応変に学級での伝える場を設けていく。面白い発想や一生懸命な表情をしていたこと等、誰もが認められるように様々な面を認め取り上げていく。

・子どもたちが心から引き付けられるよう、子どもがその日の遊びやこんで遊んだことや興味をもって見たいことを選んで話し、そのために、前もって絵本を教冊用意しておく、その日の遊びや子どもの気持ちに合ったものを選んで遊ぶ。

・みんなの前で自分の思いを言葉に表すことが、しぜんなことだと思えるようにしたい。先ずは話をしようとする姿を大事にし、言いたいことを言えるまで待つが、みんなに伝わらないときには場合により教師が言葉をつけ加えたり言い直したりしていく。

#### ごっこ遊び

・気に入った葉っぱや木の実を遊びに取り入れようとし、料理の中に入れてたりお店屋さんにならべたりする。  
◎友だちと話してごっこ遊びの役を決め、自分なりのイメージで役にあつた動きや話し方をしたり、友だちがしている役に合わせて振ったりしようとする。

・子どもと話をイメージを聴き、その子どももなりの表現や工夫している姿を認めていく。  
◎その子どももなりのこだわりを見つけて認めていく。ごっこ遊びの役名やキャラクターの名前を出して認めたり子ども遊びに参加してやりとりをしたりし、遊びに向かう気持ちをより高めていく。

#### 体を動かす遊び

◎遊びのルールに対する意識の違いから、自分の思いを言い合う。  
・船棒や蹴球等、自分がしたいことをできようになりたいたいという思いをもって、自分のペースで少しづつ楽しんで。  
・ひょうたん池の縁を歩いたり登ったことのない所に登ってみようとしたりする等、今までしたことのない遊びを試してみる。

◎違う考えを言う友だちに手を出したり、嫌になつて遊びをやめたりする姿が、子どもどのようになつていくか表れているのをよみていく。  
相手の思いを気にかけているからその姿であり、友だちの思いを留めたことを言葉に表して、その気持ちに気付かせていく。

◎周りの子どもにも、そのときの状況や見ていてどう思ったか等を聴き、思ったことを伝えるようにしていく。

・その子どもに頑張っている姿を認め、以前のその子どもの姿と比べてできるようになつたことや頑張っていることを子どもにも伝える。  
・安全面に気をつけた上で、できる部分は子どもが思いが実現できるような環境を作っていく。